

事業名	中部横断自動車道 よしわら とみざわ (吉原JCT～富沢)		事業区分	高速自動車国道	事業主体	中日本高速道路㈱
起終点	自) 静岡県静岡市清水区吉原 しずおか しみず よしわら みなみこま なんぶ ふくし 至) 山梨県南巨摩郡南部町富士			延長	2.1 km	
事業概要	中部横断自動車道は静岡・山梨・長野3県を最短ルートで結びとともに、東名・中央・上信越自動車道とネットワークを形成することにより、沿線地域の産業・経済・文化・観光等の発展及び振興に資する路線である。					
H11年度事業化	H8年度都市計画決定		H19年度用地着手		H17年度工事着手	
全体事業費	1,555億円	事業進捗率	約6%	供用済延長	0 km	
計画交通量	7,100台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.2 (残事業) 1.2	総費用 (残事業)/(事業全体) 1,232/1,279億円 事業費：1,163/1,210億円 維持管理費：69/69億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,539/1,539億円 走行時間短縮便益：1,485/1,485億円 走行費用減少便益：26/26億円 交通事故減少便益：28/28億円	基準年 平成20年		
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施					
交通量変動	B/C=1.4 (交通量 +10%)		B/C=1.1 (交通量 -10%)			
事業費変動	B/C=1.1 (事業費 +10%)		B/C=1.4 (事業費 -10%)			
事業期間変動	B/C=1.3 (事業期間 -1年)		B/C=1.2 (事業期間 +1年)			
事業の効果等	新幹線もしくは特急停車駅へのアクセス向上が見込まれる 当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する 現道等の事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期通行障害区間を解消する 他14項目に該当 関係する地方公共団体等の意見 中部横断自動車道は地域間の連携の強化、物流の効率化による経済活動の活発化などを促進し、さらに東海地震や富士山噴火などの災害時における医療・救護活動や緊急輸送ルートとして大きな役割を果たすものと期待され、山梨県知事を会長とする山梨県・静岡県中部横断自動車道建設促進連合会より整備促進の要望（平成20年12月）を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	隣接する富沢～六郷間は、新直轄として整備中。平成18年12月に増穂～南アルプス間、平成16年3月に南アルプス～白根間が開通。東海地震の発生も想定される。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	現在、用地買収中。一部でトンネル工事中。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	今後も引き続き用地取得の推進を図るとともに準じ工事に着手する予定。					
施設の構造や工法の変更等	新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図						<p>高速自動車国道</p> <ul style="list-style-type: none"> 供用中 事業中 整備計画区間 基本計画区間 予定路線 <p>高速自動車国道に並行する一般国道自動車専用道路</p> <ul style="list-style-type: none"> 供用中 事業中

注:本資料のIC名については全て仮称

□ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの